

本書の使用方法

本書は、最初に、そもそも提案書とは何なのかの説明に始まります。

次に2つの課題（住宅取得プラン・リタイアメントプラン）ごとのモデルプランがあり、重要な用語・計算方法等については引続く紙面でそれを説明することにより、容易に理解できるように心がけました。

さらに、作成時に注意する点などにつきましては、「ヒント」として本文中に挿入することで、提案書に最低限盛り込まなければならない項目を皆様が落とすことのないように配慮しております。

■ 課題の進め方

課題として与えられた **住宅取得プラン**、**リタイアメントプラン** のどちらか1つを選択し、モデルプランを開いてください。

文章中の各所の **囲みの「ヒント」**は、提案書合格のための必須記載項目や注意事項など作成上重要な事項が記載されています。必ず目を通し、ご自身で作成される提案書に盛り込むようにしましょう。

The diagram shows a sample page from the book with several callouts:

- Callout 1 (Top):** Explains that circled terms in the text are "hints" for required items and important notes for proposal creation. It instructs the reader to check them carefully and include them in their proposal.
- Callout 2 (Right):** Points to a double-underlined term in the text, stating that important terms are double-underlined. It also notes that the end of each page contains explanations and glossaries for key terms, which should be referred to if the meaning or calculation method is unclear.
- Callout 3 (Bottom):** Points to a circled section header in the text, stating that important terms are double-underlined.

The sample page content includes:

4. 今後の収入・支出の状況と問題点

この章では12か月間の期間を経て、今後の収入と支出の概算を作成いたします。

- ① 現在の収入と支出を整理する。
- ② 今後の収入を予想する。
- ③ 今後の必要資金を把握する。
- ④ 今後の予想収入と必要資金の差額を作成し、分析する。

現在の収入と支出

収入

社二課の給与収入：年間約600万円（2022年分見込み）
田 所得税・住民税 約41万円 および社会保険料 約90万円を差し引くと、実質的な年間の収入は、**約470万円**と予想され、その他収入として児童手当24万円を加えた金額が可処分所得となります。

支出

基本生活費	180万円/年（0.5万円/月）
住宅費（共益費込み）	100万円/年（8.3万円/月）
教育費	60万円/年
生命保険料	60万円/年（5万円/月）
その他支出	24万円/年

このような「解説」や「ヒント」の内容を十分に理解され、実際のファイナンシャル・プランナーになったつもりで、オリジナリティ溢れる提案書を作成していきましょう。

なお、次に「本書使用時の注意」があります。必ず一読いただき、

モデルプランの複写は不合格の対象

であることをご了解ください。